

月刊
JMITU

クヌキ



被爆クスノキ

3月号

日本金属製造情報通信労働組合大田地域支部
セガグループ分会 2023年発行

No.459

2023年春闘・夏季一時金

セガの昇給は7月から4月のまでの遡及なし
一時金回答先送り

セガ制度変更により

7月昇給4月まで遡及せず

春闘回答が相次ぐ中セガ・SLSの回答ですが、セガでは一時金について検討中という事で来月回答する。昇給については、「4月から6月は現行制度のまま変更はなく、7月に通期評価を反映した上で新制度へ移行します。今後は7月給料改定サイクルになるので、今までのような4月に遡つての遡及はしません。」組合「制度が変わったとかは関係がない。昇給分は今まで4月まで遡ってではないか、勝手に会社が変えた制度で

なぜ3カ月分の昇給額が消えてしまうのかわからない。」

会社「ステージで決まるので毎年賃金が上がるといような制度だと思っていない。」

組合「今年の春闘は賃上げゼロという事ですか。」

会社「ゼロという事ではないちゃんと回答する。」

今回の制度はいち早く話題になり、組合としても、ベアスアップについては良しと会社を認めている部分もありますが、今までの4月昇給がなくされるとい事は、春闘そのものを否定することになります。簡単に許せることではありません。また、昨年の4

月に制度の変更で、標準評価で2年に1度の昇給では評価の差がつきにくい若手社員の場合、成長実感が得られづらい懸念があるという事でG P格のステージ細分化をして毎年昇給するよう制度を変えましたが、若手社員だけでなく、中堅、ベテランであろうと毎年昇給になる制度にすべきです。

SLSについては、昇給、一時金について検討中で次回回答予定(3月27日)ただしセガの制度変更のような事は考えていない。



春闘アンケート

一部抜粋

今職場で特に不満・不安を感じていること。

「役員層の意思決定に不安・不満が募り、周りの優秀な人たちが次々に退職していつてしまい、先行きが不安です。」

「人事制度の見切り発車感、他社と比べて目玉となるタイトルの不足感」

「ステージが上がるのか不安」

「職場の特に若手を見ていると、仕事に必要な「遊技」をおこなう資金的余裕が無いように感じます。」

「子育て世代になって分かったのですが、やはり今までの生活に手当が出るというのは

かなりありがたかったです。」

「会社での仕事を考えて大崎近くに引っ越したのですが、家賃を含めてそもそもの物価が高く、交通費は払うから遠くに住むことを推奨しているような印象になっているのが良くないと思っています。」

「セガは給料が増えているのにサミーは増えておりません。セガの新卒の初任給が自分より高くなりました。グループ会社間で賃金体系は同じにして欲しいです。」

「スーパードゲームがうまくいくかどうか。いききがしない。」

新たな賃金制度について

「ベースアップは良い。退職金改革は、説明が足りてない。若者ほど損する。」

「先日、福利厚生に関するアンケートに回答しました。福利厚生の充実を図ろうと言いつつ、一方で手当は廃止。

従業員にとって明らかに嬉しい福利厚生は廃止する姿勢に疑問です。今時の優秀な学生は情報収集も得意なので、無理やり月収だけを増額する意義は薄いと思います。」

「開発現場は、一部の優秀な人たちが意欲と情熱を持って働くことで何とか回っている、というのが実態だと思います。残業の割増率を引き下げ、こゝうした人たちの労働意欲を奪うことは、「セガサミー5つの力」などに照らしても不適切ではないかと感じています。」

「年収ベースで増えることを強調しているが、近年一番良かった時の賞与が夏3・0＋冬2・5＋期末賞与のはず。」

新制度だと夏2・0＋冬2・0＋月給1・0分なので普通に減っているし、期末賞与が出ない場合はさらに減るので

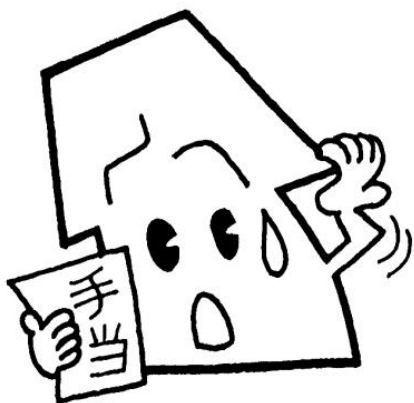
は数字のマジックにごまかされている気がする。」

「日本全体を見ても、かなり早い段階で賃上げの動きを起こしているのはかなり高感度が高いです。特に新卒の給与が取り上げられていますが、こちらによってその後の給与体系もしっかり見直して欲しいと思います。役職やリーダークラスの上がり幅が少なく、新卒で入社後に給与面での昇給が少なくなることに

なり「上を目指す理由」の一つが薄れてしまう可能性があります。最近の若手は管理職を目指すという気持ちの前よりも少ないので、何かしらで補っていききたい」

新人事制度について、今までよりも転職が多くなる時代を考えると、制度自体はよく考えられていると思っています。」

引き続きアンケート行っています。回答の方よろしくお願ひします。



掌編小説

服薬ゼリー

仙洞田一彦

ロシアのどこかの都市の、一年前のものだという映像がテレビに流れていた。

夕方の六時ごろから約一時間、晩酌しながら飯をすませる。テレビはその時から風呂に入るまで、つけっぱなし。風呂に入るのは寝る前、それまであっちのチャンネル、こっちのチャンネルと気ままに選択しながら過ごす。定年退職し数年、夜はだいたいそのパターン。一人暮らしだから、チャンネル争いもない。

真二郎には定年後何かしようという計画はなかった。定年になって一息ついた後、考えようとは思っていた。それ

が計画といえど計画。だが、考えるより先に怠惰な生活が身についた。ごくたまに本屋を覗くときもある。書棚に並ぶ週刊誌、月刊誌を見て興味を持つこともあるが、そこで手に取って開きはするが買わない。

健康保持には、毎日体を動かすことが大切という考えが、いつの間にか刷り込まれていた。だから定年後すぐから、散歩は欠かさなかった。気が向けばジョギングもする。またいつの間にかナンプレというのをやり始めていた。縦横9マスずつの中に数字を埋めていくものだ。体を動かすだけでなく、脳も動かさなければ筋肉や関節同様、錆びついてしまったら動かなくなってしまうのではないかと思っ

からだ。

真二郎が食卓の椅子に身を預けて見ている映像には、ヘルメットをかぶり、関節以外のところは、殴られても痛くないように緩衝材で厚くなっている武装をした警察官大勢が、市民に襲い掛かっているのが映っている。逃げ遅れた市民一人が地面に押さえつけられ、蹴飛ばされ、殴られている。

解説はウクライナの戦争がはじまった頃の映像と書いていた、ようだ。晩酌の酔いが回っているから、呂律が回らないように、脳の呂律も回らない。確かなことは言えない。警察官に殴られている方はウクライナ侵略に反対している人たちだ。弾圧が激しく、一年前のようなこうした運動

は、最近では見られないらしい。テレビだって、自分の国に都合の悪いことは報道しないだろう。最近よく耳にする「ネツゾウ」、画数は少ないが、ちよつと書けない漢字だ。ロシアのような国ではネツゾウしたようなニュースばかりかもしれない。不正義を正義とネツゾウするんだらう。

映像が切り替わって、路上で何かが燃やされ炎が立ち上っている。今度はフランスだ。年金が貰えるようになる年齢を引き上げたという。それに抗議するデモ隊が火をつけたらしい。こちらも警官隊が出ている。日本も年齢が引き上げられたが、静かなものだった、のではないか。そういうことに、あまり関心のない真二郎の記憶だからあてにはな

らないが、そんな記憶がある。

薬だけで飲むと苦くって吐き出しそうになるが、ゼリーを混ぜて飲むとすんなり飲み込める。そんな宣伝を見る。それと同じで、すんなり飲めるような工夫が必要だ。フランスはそういう工夫をしながらいったんだろう。日本人はそういうことは、芸が細かいんじゃないかな。真二郎は自分が穏やかにここまで生きてこられたのは、苦い薬も飲めるような配慮があったからではないかと思った。

映像が切り替わったように、真二郎の脳の映像も、自分の記憶の中の映像に切り替わった。目は開いていて、テレビの方を向いているが、見てはいない。この酔い心地。日本は良い。日本は静かだ。静か

が必ずしもいいわけではないかもしれないが、静かがいい。日本人にはあっている。

真二郎は目を閉じた。中国も極端だよ。人つ子一人通らない市街地風景が頭に浮かんだ。新型コロナによる封鎖だ。マンションから買い物にも出られない報道記者の姿も浮かんだ。かと思えばいきなり自由だ。コロナ感染はそんなに、人間の思いのままになるのか。感染者数が激減したというが、眉唾物じゃないのか。政府の都合に合わせて感染者数を水増ししたり、減らしたり。デモが増えると、突然感染者が減った。そうだ。あのデモだ。コロナの封鎖に抗議したデモが中国の各地で起こった。中国の事なのに、日本では事細かに報

道されたような記憶がある。デモがコロナに効いたように感染者が減った。

日本のコロナはそういうこととはない。穏やかに増えたり減ったりしているうちにインフルエンザ並みになった。穏やかというのが大事だ。だんだん変わっていく、気づかないほどの変化、それがいい。刺激がないのか、刺激を感じなくなったのか。

テレビ画面の上の方に文字が並んだ。頭の中に向いていた意識がテレビに向いた。北朝鮮が何か発射した。飛ショウ体という。飛ショウ体なんていう言葉はここから知った。ネツゾウと同じで、飛ショウのショウもちよっと書けない。こちらもちよいちよい字幕が出て、忙しくなった。

北朝鮮では生活が苦しく、食料も不足しているらしい。ミサイル一発何億円だろう。今年だけですでに何百億円消えたとかいう話もある。お金がミサイルに回れば、民が飢えるのは、酔った頭でもわかる。日本はいい国だ。いい国を守りましょう。敵基地を先に攻撃しましょう。

真二郎は流しに立って、空コップを出し、そこに一升瓶から酒を注いだ。グイッと半分くらい飲むと、半分くらい注ぎ足して、椅子に戻った。

真二郎は続きを考えた。ミサイルを何百発買うんだっけ。それから、それから……テレビはつけっぱなし、テーブルの上のコップ酒も、目覚めて風呂に入るまではそのまま。春の夜は静かに更けてゆく。